
嘘も方便

スイッチ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
嘘も方便

【Nコード】
N9692J

【作者名】
スイッチ

【あらすじ】
あるところに正直者の男がいた。

あるところに、正直者の男がいた。
男は自分を偽ることをしなかった。
道を歩いてて誰かとぶつかると思は顔を押めて舌打ちをし、困っている人がいれば爆笑した。
嫌なことは嫌だと言ひ、お世辞の一つも言わなひ。
彼は嫌われ者だつた。

あるところに、嘘つきな男がいた。
男は自分にさへ嘘をついた。
道を歩いていて人にぶつかれば舌打ちしたい気持ちを抑えて相手を心配するフリをし、困っている人がいれば自分で良ければ力になると思つてもいひないことを言つた。
嫌なことも笑顔で引き受け、お世辞は朝飯前。
彼はそこそこ人気者だつた。

あるところに、嘘が嫌いな少女がいた。
少女と正直者の男が道ではつたり出会つた。
「こんにちは」
少女が声をかけると男はにこりともせず「こんにちはと言つた。
男は急がなければいけなひ用事があつた。

「あなた、嘘を言わないんでしょう？」

「鬱陶しいな、俺は急いでるんだ。さっさとどけよ」
問いを無視し、男は少女を押し退けて道を歩いていった。

次の日。

嘘が嫌いな少女は嘘つきな男に出会った。

「こんにちは」

少女が挨拶すると、嘘つきな男はにつこりしてこんにちはと言った。男は急がなければいけない用事があった。

「あなた、嘘つきなんですよ」

男は少女の言葉に気分を害し苛々したが、努めて冷静な表情を作った。

「そんなことないよ」

「それこそ嘘よ」

少女は男の脇をすり抜けていった。

目に見える範囲から少女がいなくなると、男はぶつぶつと怒りながら道を歩いて行った。

嘘が嫌いな少女に、ませた少女が正直者の男と嘘つきな男のどちらが好きか尋ねた。

ませた少女は当然、嘘が嫌いな少女は正直者の男を選ぶと思っていたが、嘘が嫌いな少女の答えはこうだった。

「どっちもお断り」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9692j/>

嘘も方便

2010年12月31日19時58分発行